

波紋 1993 10 第100号記念



森松グループ社内報「波紋」が今回で100号を迎えることができました。創刊より8年と4ヶ月。この「波紋」の道程には、思い出がいっぱいです。現在の森松がありますのは、お客様、仕入れ先様のご支援、ご指導あつてのことです。今後も森松マンは、「明るく、元気で、素直に」一致団結して行動いたします。どうぞ皆様の変わらぬご愛読を心よりお願い申し上げます。
編集委員一同

祝・「波紋」100号発刊!



森 信之

「波紋はモーリンの歴史、皆の歩み」

八年前の一九八五年七月に発行した社内報が、今回で一〇〇号を迎え、創刊号より前号まで目を通してみました。

85年、90年3月号までは、ワープロ・コピーで発行していた。

スリッター機を導入した月に、サーベ先生の英会話教室が始まっています。

初版の会社案内は、'87年の10月に牧野、橋本、岩間、伊東、吉岡の5名の編集者で完成し、表紙にカエルがイメージキャラクターとして採用された最初であり、その月に第一回アメリカ研修が発刊しました。

20世紀プラ副社長ワナー氏が来社したのが88年10月です。彼は、当時32才だった。

ハワイ・香港・マカオ・北海道・高山・沖縄・広島などの社員旅行も思い出されます。

私自身振り返って「交差点」を読んでもみすと、「報連相（ホールレンソウ）・森松マン精神・継続は力なり・整理整頓・コミュニケーション」この五つの言葉が一番たくさん使っている気がします。企業経営の基本は、この五つの言葉を全員が実行していく事ではないかとしみじみ感じます。

当り前の普通の事を徹底して行う事の難しさを認識し、明るく元気に前進あるのみ。

過去の行動が今の自分であり、今、自分の行動は将来の予言である。」

木村常務と森経理部長を 囲んでの座談会

社内報の創刊前から森松で勤めている木村常務と森経理部長に、昔のことや今後についてなど、編集部員よりお聞きしました。

編社内報に「波紋」という名前が付いた由来は？

森 会社内で社内報の名前を募集しまして、色々でた中で、私と橋本さんの応募した「波紋」が投票で選ばれました。「波紋」の意味ですが、ある物事が切っ掛けになり、それが関連し合いながら他に及んでいく影響と言う事で、この社内報を通して皆様に森松を知ってもらう為にこの名前で応募しました。

編「トシ君の一方通行」は大変評判がいいのですが、書く時何か秘訣があるのですか？

木村 秘訣は無いですね。思った事をそのまま書くだけで。答えになっちゃってないけど、評判がいいと言ってくれたら、書き手として大変嬉しいですね。これからの社内報をどの様な感じにしていきたいですか？

木村 今まで以上に、明るくアツトホームな雰囲気を保てればいいと思ってます。

森 明るく楽しく仕事してる雰囲気

気が分かる様にしてほしいのと、若い人の意見をもう少し載せたらいいんじゃないかなと思います。

編よく昔の森松は大変だったと聞きますが、どの様に大変だったのですか？

森 まず、若い人がいなく人手不足でした。それと、荷物を運ぶのにもリフトがなく、配達の方を呼ぼうとしても無線がないので、とても大変でした。

木村 錦に会社があった頃は、大変と言えば大変だったね。倉庫らしい倉庫もなく、荷物が会社の前に山積みになっていて、朝来ると、まずトラックの中へ荷物を入れる作業から始まり、とにかく大変でしたけど、僕は反対にいい思い出として残っています。

森 工場とかの屋根がありませんでしたので、雨が降ったら大急ぎで荷物を入れて。そういう感じで、とにかく大変だったのかな。

木村 でも、今よりいい意味で緊

張感ありましたね。今は、会社が広くなったけれども、緊張感がだんだん少なくなってきた様な気がします。

編社内報を始めた理由は何ですか？

木村 これは社長が、社内と、得意先様・仕入先様に森松を理解していただくとう始めたことです。これは今後も変わらないでしょうね。

森 やっぱ社長がやろうと言っ

て始めましたね。社内の報・連・相を良くする為ですか。だんだん人数が多くなると、会社の中で何があるのか分からなくなりますが。それと、常務が言ったように、森松がどういう仕事をどんな感じでやっているのかを回りの人に分かってもらう為。人間味を分かってもらえると、人が人と人の付き合いですよ。商売もそうです。

編今までの九十九号を見てきた中で、印象に残っている記事はありますか？

木村 皆それぞれに残ってますけど、ものすごく覚えてるのは十号目かにお客様から、「あなたの原稿を見て会社の姿勢とか、よく分かります。けれども実は、あなたの会社の社員の方はその姿勢とちょっと違うのではないですか？」という電話がかかってきて。それはちょっとした誤解だったんですけど、真剣に読んで

もらえるんだなという事が嬉しかったですね。僕はその事を忘れないです。

森 私は、心に残ると言うのかな。

やはり、入社すると「新入社員紹介」というのがあるので、そこに今まで載った方で、今いない人が多いという事が少し寂しいなという。そういう思いが一番です。

編今まで書いた原稿の中で、一番出来だったと思うものはありますか？

森 ないです。(笑)世の中の動きをつかんで、文章がサツと書けませんので、書いて下さいという依頼をいただくたびに悩みに悩んでいます。だから我慢できるような文章なんて、一つもないです。

木村 でも悩むというのは、真剣に取り組んでいるという事じゃないかな。僕の場合は何が上出来で、また不出来だなと思っただ事ありません。

編社内報を初めて出した時の発行部数はどれくらいでしたか？

木村 現在は五〇〇部ということですが、初めは一〇〇部ぐらいでした。

編もし社内報の内容を全て変えるとしたら、このコーナーは是非作って欲しいというものはありますか？

木村 全て変えることがいい事かどうか分かりませんが、徐々に変えていって、二〇〇号の

時は全て変わってるかも知れませんがね。いろいろな企画はみんな考えていくといいと思います。例えば、お客様や仕入先様を呼んでの対談形式とかね。みんなで質問をして載せるだとか、企画はいいはいあると思います。それはもう、今後の課題ではないでしょうか。

森 私も、日頃はなかなか考えてなかったのですが、今、物があふれて、捨てるのに困る物がいっぱいありますから、不要品交換コーナーみたいな情報のあるといいかな、と思ったのですが…。

木村 面白いじゃない。

森 あと、各部サークルからの声みたいなのを載せるとか。

木村 情報とかね。だから、二〇〇号ぐらいの時は、全然変わってると思いますよ。

森 でも、どこの社内報も似てる様な気がします。だからこそ、どんなものを載せたらいいのか、考える価値がありますね。

他のものとカラッと変われば、一番面白いだろうなと思います。

森 毎月の社内報で、一番楽しみにしているコーナーは？

木村 「トシ君の一方通行」です。(笑)

森 有難うございます。先月九月号の坪井君のインタビューなんか面白いですね。でも、みんな楽しみにしていますよ。

すよ。しっかりと読んでます。みんな真剣に考えてるから、是非目を通して下さいね。それで、自分なりに理解して下さい。

森 昔と今の波紋を比べての違い・感想は？

森 昔の波紋は編集委員の人が原稿を集めて、ワープロで打ったのを一つずつ検索してやっていたので、とても大変でした。見た目も苦労していたわりには余り良くなかったです。今の波紋の方がすっきりしていいなと思っています。

木村 一〇号ぐらいまでかな、とにかく大変でした。牧野君がすごく苦労していたことを覚えておられます。

森 波紋一〇〇号を機にしての森松宣言は？

木村 森松宣言、ますます元気です。元気が出る森松展』をよろしくお願い致します。

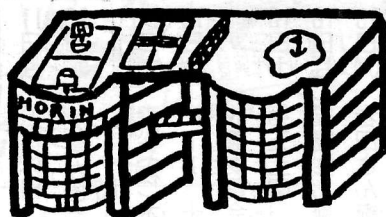
森 波紋二〇〇号の時には、会社はどの様になっていると思いますか？

木村 恐らく、中部の森松でなくて日本の森松になっていると思うし、今の若い人が第一線でバリバリやっているといますね。

森 要の工場・事務所が、きれいな新社屋になっているんじゃないかなと思います。

木村 丹後倉庫も、本社ビルと同じデザインのビルになり、ツ

インで建てて3Fで連結し、屋上もつなぎ、テニスコートやバスケット、ゴルフの練習場など造って…。後、文化の香りがする様なルームも作ったり、そうゆう夢を持つといいなって思ってるし…なってるヨ。



森 これからの波紋に求めるものは何ですか？

森 この波紋というのは、会社のことを知ってもらいたい機会だと思っています。だから、会社のイメージを代表する社長や常務にもっといろいろな話を進んで聞いてみると、何かもつと面白いものが書けるのではないかなと思います。そうすれば、森松の中が分かるような社内報ができるように思います。

木村 僕はよく、お客様・仕入先様に接するのですが、そうすると、一号から恐らく今度の一〇〇号までファイルして下



さっている方が多くみえるんですよ。ほめてもいただけないし、こういう風にしたらいいのでは、という批評もして下さる。だから、これからの波紋に求めるものというのは、継続で、二〇〇号どころか三〇〇号・四〇〇号・五〇〇号まで、会社のある限り続けていただきたいということかな。

森 それと、今五〇〇部発行しているのですが、これより多くの方に読んでいただきたいということ、発行部数も増えるようになるといいな、と思います。



森 御協力有難うございました。私達編集部は、これからも森松らしく、明るく、元気で、楽しい社内報「波紋」を協力し合っ

歴代編集長よりお祝いのメッセージ

森松社内報「波紋」が、一〇〇号に達したという事は、素晴らしい事だと思います。八年と四ヶ月と言えば、まだ入社してない人もかなり居ると思います。当然、私が初代の編集長であった、という事を知らない人が居ても不思議ではないでしょう。それと、私が編集長を務めたのは、一号から十二号までの一年間でありまして、やはり素晴らしい功績を残してくれたのは二代目の橋本編集長だと思います。最も長期にわたり編集長を務め、一〇〇号を迎えるに至った基盤を造ったのは間違いなく彼女だと思います。心から御礼申し上げます。

そして、歴代の編集長の皆様、編集に参加した多くの編集委員の皆様、特別寄稿をして頂いた御得意様、そして励ましのお手紙やお電話を頂いた大勢の皆様の御協力のおかげだと思います。そして来月からは二〇〇号に向けて若き編集委員の皆様力をさらに結集し、さらに大きな「波紋」を広げていって下さい。



一代目編集長
牧野 光 昌

ちなみに「波紋」の名付け親は二代目橋本編集長と森経理部長です。本当に良い名前を付けて頂きました。

一〇〇号達成おめでとうございます。突然連絡が届き、「波紋」が次回で一〇〇号になるので、何か書いて至急返送して欲しいと、御丁寧に返信用封筒と原稿用紙まで同封してある。えっ？もう一〇〇号？そうか私が涙々で退社して、もう四年と三ヶ月。毎月送って頂く「波紋」はとても楽しみ。毎号一字一句しっかり読ませて頂き、その都度教えられ、考えさせられたり、ほのぼのとさせられたりと、ありがたうございます。同時に、その紙面から社員の皆さんの頑張りと苦闘ぶりを感じます。そして、そのエネルギーの結果があつて、森松という会社は着実に力をつけ発展していついてるのを感じ、ワクワクしている私です。

さて、ここでちょっぴり不満を云わせてもらえるなら、特に男性社員の方達は幸せなことに、アメリカ研修旅行で素晴らしい感動体験をされてきますね。それでその感想文に、二つでも何か具体的な体験場面やエピソードなど、書いてもらえると、いふと常々感じてしまうのは私だけかな？紙面からしか聞けない私など、少し歯がゆい思いで読ませて頂いています。

「波紋」は素晴らしい会社の発展の記録であり、社員一人一人の成長の記録でもある様に思います。これからも「波紋」の名のとおり、紙面を通していろいろな波を起こし、読む人の心にも波を起こして下さい。遠い北国からいつもエールを送っています。



二代目編集長
橋本 正 子

平成5年 10月の社内行事

1日(金)	誕生会 十二時
2日(土)	第一土曜日休み
3日(日)	竹田さん誕生日
4日(月)	編集会議 十七時四五分
5日(火)	若手サークル会 十八時
7日(木)	素麺会 十七時半
8日(金)	加藤先生来社 十三時
9日(土)	K-1 十七時半
10日(日)	第二土曜日休み
11日(月)	体育の日
11日(月)	振替休日
13日(水)	二気が出る森松展開催 十時~十七時
14日(木)	森松(株)本社SFにて
15日(金)	K-1 十七時半
16日(土)	改善委員会 十八時
16日(土)	第三土曜日休み
18日(月)	福島さん誕生日
19日(火)	岩田さん誕生日
23日(土)	加藤主任結婚式
24日(日)	竹内さん誕生日
24日(日)	加藤主任誕生日
25日(月)	経営会議 十五時
25日(月)	営業会議 十八時
30日(土)	K-1 十七時半

10月13日(水)~14日(木)
モーリンマン全員のパワー
で成功させよう
第二回「元気が出る
森松展」開催!!

この記念すべき一〇〇号の時に、編集長であることに光栄に思います。

今まで築かれてきた「波紋」の歴史を大切に、より愛される社内報作りをしていく所存でございます。御支援の程、よろしくお願



編集長
高橋 武夫

編集発行者
森松株式会社

発行責任者
高橋 武夫

平成5年10月1日
第100号